活動名　平成３０年度ＣＯＣプラス事業
「のと共栄信用金庫」との協創インターンシップ
団体名
代表者名　経済学部　新　広昭

はじめに（背景・目的・目標）

地方創生に関する国の行政計画である「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、人口の東京一極集中緩和のため、地方大学に学ぶ学生の地元定着の促進を図るとしています。その具体的政策として、全国的にＣＯＣ＋（シー・オー・シー・プラス）事業を展開していますが、石川県では金沢大学が中心となり、本学をはじめ地元８大学が連携して本事業に取り組んでいます。その一環として、各大学と県内事業所とが連携して実施する､｢協創インターンシップ」を進めることとなりました。

一方､「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、産官学金労言の連携による地域課題の解決が強調されていますが、特に、金（金融機関）のなかでも地域密着の協同組合組織である信用金庫の役割を重要視しています。

そこで、本学では平成 30 年 3 月に石川県信用金庫協会と包括連携協定を締結したこともあり、石川県七尾市に本店のある、のと共栄信用金庫との連携による協創インターンシップ事業を実施しました。

この事業は「協創」の名が示すように、単なる職場体験ではなく、学生を受け入れた信用金庫にとっては信用金庫が支援する事業者の課題解決に向けた学生の若い感性のアイデアを得、学生にとってはビジネスの現場で役に立つ知識と技能を身につけるといったWin-Winの関係を形成し、そのことにより地域経済の活性化、学生の地元定着に資することを目的とするものです。

活動内容

協創インターンシップ事業は､平成30年9月3日（月）～9月7日（金）の5日間実施しました。

参加者は、広く募集した結果、大学生3名（3年1名、2年2名）短大生3名（1年）の計6名でした。

インターンシップは下記の「プログラム」に沿って実施しましたが､特徴的なプログラムとして､3日目に、七尾市・南大呑地区の住民と共栄信用金庫が日本財団の「わがまち基金」からの助成を受けて取り組んでいる地域活性化のための取り組みを調査に行き、同地区からの要望に基づき、同地区の活動拠点「大呑ハウス」を活用した事業計画を策定するワークショップを行い、その成果発表会を 5 日目（7日）に実施しました。

協創インターンシッププログラム

１日目（9月3日）
◎企業経営と地方創生、起業支援等についてレクチャー、ディスカッション
◎地域金融機関の役割と業務についてレクチャー、ディスカッション
２日目（9月4日）
◎本店、支店の基本的業務についてレクチャー
３日目（9月5日）
◎南大呑地区実地調査
４日目（9月6日）
◎ワークショップ「大呑ハウス」の事業計画の策定
・事業内容の企画（客層、客単価、需要予想なども含んだ事業計画）
・必要経費の見積もり（イニシャルコスト、ランニングコスト）
・資金調達計画
５日目（9月7日）
◎午前：プレゼン準備
◎午後：プレゼン（成果発表会）

ワークショップでは、『創業者になりきって事業計画を立てる』というテーマのもと、大学・短大の２チームに分かれて現地調査を行い、それぞれの事業計画を策定しました。大学チームは宿泊施設（ゲストハウス）の創業計画、短大チームは飲食店（イタリアンレストラン）の計画です。いずれも設備資金や運転資金など具体的な金額を計上しており、集客のための宣伝方法や事業の見通しなども含むしっかりしたものです。

これらの事業計画は、鈴木正俊理事長をはじめ、のと共栄信用金庫の役員や大呑地区の方々に参集していただいた成果発表会でプレゼンしました。学生たちは緊張しながらもしっかりと発表と質疑応答を行いました。

事業計画のプレゼンの様子①

事業計画のプレゼンの様子②

成果、結果の考察

学生のプレゼンに対しては、鈴木理事長をはじめ役員の方や大呑地区の方々から突っ込んだ質問や貴重なコメントを数多くいただいたが、概して高い評価をいただいたと感じており、実際の事業計画にもできるところは反映させることとなりました。

学生の方も、信用金庫が地方創生に大きな役割を果たしていることを体験・理解し、信用金庫のイメージが大きく変わり、大変に有意義であったこと、自分たちの提案に金融機関の幹部が真剣に耳を傾けてくれたことに緊張しながらも感激したといった感想が大方でした。

このように、本事業は学生、信用金庫、信用金庫の支援先の３者が Win-Win-Win の関係、言い換えると「人よし、我よし、世間よし」の３方よしの関係を作っていくＣＳＶ（共有価値の創造）の取り組みであると考えられます。

地方創生には地域課題の解決に取り組む多様なステークホルダーがこういった３方よしの関係を作っていくことが重要ですが、本事業はこういった取り組みのモデルになっていけばよいと思います。

大呑地区

今後の課題、展望

この協創インターンシップ事業は、包括連携協定締結に基づいた取り組みとして、2019 年度にはのと共栄信用金庫以外の信用金庫にも広げていく方向で協議（2018.3 現在）しており、信用金庫と大学とが連携した地方創生の取り組みが県下全域に拡大されることを期待したいと思っています。

最後に、つきっきりでレクチャーいただきました、のと共栄信用金庫職員の方々はじめ、ご関係者のみなさまにこの場を借りて感謝申し上げます。